

(電子メール施行)
農技第1367号
平成28年9月21日

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

平成28年度病害虫発生予報第5号を發表します。

平成28年度病害虫発生予報 第5号

向こう1か月の病害虫発生予想

作物名	病害虫名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病(穂いもち)	平年並	やや少
	ヒメトビウンカ	やや多	やや多
	トビイロウンカ	やや少	やや少
ダイズ	立枯性病害	平年並	やや少
	べと病	平年並	やや少
	紫斑病	平年並	少
	吸実性カメムシ類	平年並	平年並
ダイズ・野菜等共通	ハスモンヨトウ	やや多	やや多
アブラナ科野菜共通	ハイマダラノメイガ	やや多	やや多

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(9月17日から10月16日までの天候見通し)

平成28年9月15日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

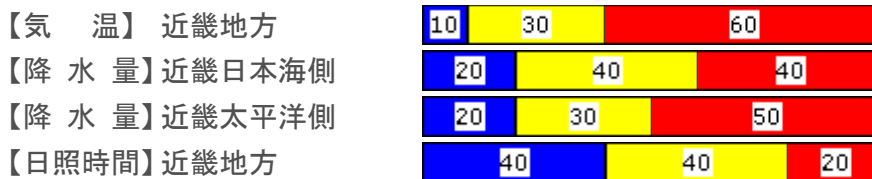
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%、近畿太平洋側で多い確率50%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

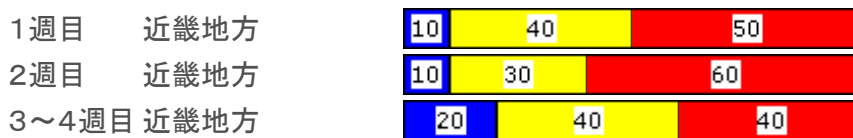
週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例:  低い(少ない)  平年並  高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例:  低い  平年並  高い

<予報の対象期間>

- 1か月 : 9月17日(土)～10月16日(日)
1週目 : 9月17日(土)～ 9月23日(金)
2週目 : 9月24日(土)～ 9月30日(金)
3～4週目 : 10月 1日(土)～10月14日(金)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【いもち病（穂いもち）】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
(2) 予報の根拠

9月上旬の場内ほ場（加西市）の調査では発病は認められたが、その程度は低い。現地ほ場においては112地点、224ほ場において8ほ場（5%）で発生が確認されているが、その程度は低い。

今後の気象条件は、気温は高く、降水量は平年並～やや多く、日照時間は平年並～やや少ないと予想され、今後は本病の発生をやや助長すると考えられるため、平年並の発生で推移すると考えられる。

2 【ヒメトビウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量： やや多
(2) 予報の根拠

9月上旬の場内ほ場でのおすくい取り（10回振り）調査では平均虫数は43.5、現地ほ場においてはおすくい取り（10回振り）調査では、平均虫数12.9（平年値6.3）と、発生量はやや多かった。今後の気象条件によると、やや多い状況で推移すると考えられる。

ヒメトビウンカは縞葉枯病ウイルスを伝搬するので、縞葉枯病が多発したほ場及びその周辺ほ場では、収穫後のひこばえが感染により黄化していないかを観察し、多い場合はヒメトビウンカの越冬密度を減らすため早めに耕耘を実施する。

3 【トビイロウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量： やや少
(2) 予報の根拠

県内の3カ所に設置している予察灯への飛来は認められなかった。場内ほ場において9月上旬に発生が確認されたが密度は低かった。発生ほ場数は9月上旬の現地ほ場調査では112地点、224ほ場のうち19ほ場（8.5%）で程度は低かった。

今後の気象条件により、やや少ない発生のままで推移すると考えられる。

ダイズ

1 【立枯性病害】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
(2) 予報の根拠

9月上旬の場内ほ場の調査では発病は認められなかった。現地ほ場においては32地点、64ほ場のうち、10ほ場（15.6%）で発生が確認されているがその程度は低い。

今後の気温は高く、降水量は平年並～やや多いと予想され、茎疫病、黒根腐病ともに、平年並の発生で推移すると考えられる。

2 【べと病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
(2) 予報の根拠

9月上旬の場内ほ場の調査では発病は認められなかった。現地ほ場においては32地点、64ほ場のうち、7ほ場（10.9%）で発生が確認されているがその程度は低い。

今後の気温は高く、降水量は平年並～やや多いと予想され、平年並の発生で推移すると考えられる。

3 【紫斑病】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

9月上旬の場内ほ場の調査では発病は認められなかったが、今後の気象状況により病徴が明瞭になるので、発生は平年並で推移すると考えられる。

4 【吸実性カメムシ類】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

9月上旬の場内ほ場の調査でホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシの発生を確認した。8月下旬の現地ほ場調査では30ほ場のうち、6ほ場(20%)で発生を確認しており、いずれも平年並の発生であった。

今後の気象状況により、平年並の発生で推移すると考えられる。

ダイズ・野菜等共通

1 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

加西市、南あわじ市におけるフェロモントラップ調査では誘殺数はやや多く、8月下旬から9月上旬にかけて顕著な誘殺ピークが認められ、今後は幼虫による加害が予想される。

今後は秋期の各種作物の作付け増加に伴い、今後の発生はやや多い状況で推移すると考えられる。

アブラナ科野菜共通

1 【ハイマダラノメイガ】

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

9月上旬の誘致植物であるクレオメの主茎に対する寄生率は24%と平年並(過去5年間の平均は27.2%)であった。また、場内ほ場における8月下旬定植のカリフラワーに対する寄生株率は27%とやや高かった。

秋期のアブラナ科野菜の作付け増加に伴い、今後の発生はやや多い状況で推移すると考えられる。

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)